

「わらしべ長者」の経済学

授業プリント

学年	
組	
番号	
名前	

■第一段落（一三六・1～一四〇・11）

一 「昔、貧しい男がいた。男は観音さまに富を授かるよう祈願した。すると、最初に手につかんだものを大切にせよとお告げがあった。男が最初に手にしたのは何のとりえもないわらしべ（わらの屑）であったが、お告げを信じてこれを捨てずに持ち歩いた」（一三六・2）について、

(1) 「わらしべ」の「わら（藁）」の語を使った慣用句をあげよ。

〔 〕

(2) 「お告げを信じて」とあるが、誰のどういう言葉を信じたのか。

〔 〕

二 「飛び回るアブをそのわらしべでしばって持ち歩いたら、道行く子供がそれを欲しがったので、その母親が持っていたミカンとわらしべを交換した。すると、のどが渴いて水気のあるものを探していた商人と出会ったので、商人が持っていた半端の反物とミカンを交換した」（一三六・6）について、

(1) 「それ」とは何を指すか。

〔 〕

(2) 「半端」の意味を調べ、その語を使った四字熟語を書け。

意味 〔 〕

四字熟語

〔 〕

三 「次には旅を急いでいるのに、馬が倒れてしまった武士と出会った。そこで、その反物と道に倒れた馬とを取り換えた。幸いにも、馬を介抱したら元気になった」（一八四・10）について、

(1) 「介抱」の意味を調べ、類義語をあげよ。

意味 〔 〕

類義語 〔 〕

四 「「わらしべ長者」の物語では、特段の努力をせずにただ道を歩いていただけで、つまらないわらしべが最後には高価な屋敷に化けたという、男の驚くべき幸運に注目が集まるようだ。実際、「わらしべ長者」をキーワードにインターネット検索してみると、少ない元手で楽をして大もうけというたぐいの話が山ほど出てくる」（一三七・5）について、

(1) 「特段」の意味を調べよ。

〔 〕

(2) 「努力をせずにただ道を歩いていた」の「努力」とはどのような努力か。

〔 〕

(3) 「元手」の意味を調べよ。

〔 〕

五 「話に面白みをつけるにはこれでもよいかもしれないが、この点に気を取られてしまうと、「わらしべ長者」は実直な勤労の美德と価値を否定する、子供には有害な話とみなされかねない。経済学者としては、「わらしべ長者」が労せず大もうけの意味に解釈されるのは大変残念なことだ」（一三七・10）について、

(1) 「この点」とは、どのような点か。

〔 〕

(2) 「実直」の意味を調べよ。

〔 〕

(3) 「美德」の意味を調べよ。

〔 〕

(4) 「労する」の意味を調べよ。

〔 〕

六 「なぜなら、「わらしべ長者」は、経済学の視点で見ると非常に興味深く、有害どころか親子でじっくり味わうべき話だからだ。ここには、自発的な取引によって経済学的な利益が生まれ、さらに取引に参加したすべての人たちは利益を受け取るこゝとができる、すなわち交換による経済学的価値の創造という、教科書の第一章に出てくる経済の基本原則が美しく表現されている」（一三七・14）について、

(1) 「有害どころか親子でじっくり味わうべき話」とあるが、なぜか。

〔 〕

(2) 「自発」の意味を調べよ。

〔 〕

(3) 「創造」の意味を調べよ。

〔 〕

(4) 「交換による経済学的価値の創造」とはどういうことか。

〔 〕

七 「自発的交換による価値創造の原則は簡單明瞭である。自発的な双方の合意のうえで交換されるためには、交換に応じる双方にとって、交換前よりも交換後の状態の方が好ましいものでなければならず、その差がまさに交換によって得られた価値にほかならない」(二三八・七)について、

(1) 「明瞭」の意味を調べよ。

(2) 「自発的な双方の合意」とあるが、その前提となるのはどのようなことか。

(3) 「その差」とは何と何の差か。

八 「話に現れる取引を振り返ると、断ろうと思えば断れるものばかりだったから、話の中でももちろんこの原則は成り立つ。わらしべを家に変えた男が大いに利益を得たことは言うまでもないが、ほかの人たちも利を得ていることを忘れてはならない」(二三八・14)について、

(1) 「断ろうと思えば断れる」とは、どういうことか。

(2) 「この原則」とは、どのような原則か。 ①

(3) 「ほかの人たちも利を得ている」について、それを具体的に説明した箇所を本文中から抜き出し、最初と最後の十字を答えよ。(句読点を含む。)

九 「このような取引からの利益は、物々交換の世の中ゆえに起こることではなく、金銭を使う現代経済でも同じことであることにも注意しておきたい。たとえば、男は千円でわらしべを売り、その千円でミカンを買ったと話を書き換えればよい。つまり、特定の取引に貨幣が媒介するかどうかということ自体は問題ではないのだ」(二三九・10)について、

(1) 「媒介」の意味を調べよ。

(2) 「特定の取引に貨幣が媒介するかどうかということ自体は問題ではない」のはなぜか。 ②

一〇 「より本質的なのは、専門用語で言う「市場の非完備性」ということである。つまり、登場する人々がそろって共通に取引できる場が備わっていないという点だ。仮に、物語に登場する人々が一堂に会して、さてお互いに物を売買しましょうという事になったら、わらしべを持った男が屋敷を手にする可能性はほとんどない」(二三九・15)について、

(1) 「完備」の意味を調べよ。

(2) 「より本質的なのは、専門用語で言う「市場の非完備性」ということである」とは、どういうことか。次の空欄A・Bに適切な言葉を入れて答えよ。

わらしべ長者の取引において本質的な問題は (A) という点になく、(B) という点にある。

A

B

(3) 「一堂に会する」の意味を調べよ。

(4) 「わらしべを持った男が屋敷を手にする」には、どのような条件が必要か。

一一 「したがって、わらしべを持った男が大もうけできたのは、これらの人々の間では直接に取引できる場が完備しておらず、また取引を媒介できる人物が彼しかなかったからである。言い換えれば、これらの人たちの間に眠る経済学的価値を引き出すことができるのは、わらしべの男しかなかったからだ。そういう役割を担った結果、男はもうけるべくしてもうけたのである」(二四〇・7)について、

(1) 「これらの人」が指す内容を本文中から十字以内で抜き出せ。

(2) 「これらの人たちの間に眠る経済学的価値」とは、どのようなものか。 ③

■第二段落（一四〇・12～一四三・10）

一 「それでは、男がそのような役回りを運だけで手に入れたのだろうか。私はそうは思わない。なぜなら、話の中で男は少なくとも二度にわたり、無視できない重要な経済活動をしているからだ」（一四〇・12）について、

〔1〕「そのような役回り」とは、どのようなものか。

〔2〕「無視できない重要な経済活動」とは何と何か。

二 「第一に、わらしべにアブを結びつけたというところだ。確かにわらしべとアブはたまたまたで手に入ったものかもしれないが、それらを結びつけたことで男はおもちゃを生産したのである。たとえ原価がゼロであっても、人を喜ばせる創造的なアイデアに対価が支払われることに何らの不都合はないはずである」（一四〇・15）について、

〔1〕「わらしべにアブを結びつけた」のが経済活動と言えるのは、なぜか。

〔2〕「タダで手に入った」を言い換えた箇所を、本文中から五字で抜き出せ。

〔3〕「原価」の意味を調べよ。

〔4〕「人を喜ばせる創造的なアイデア」とは、具体的にはどのようなことか。

〔5〕「対価」の意味を調べよ。

〔6〕「対価」とは、この取引では具体的に何のことか。

三 「第二に、馬を引き取ったところである。馬が息を吹き返したのには確かに幸運であったが、引き取る時点では倒れていて、死にそうであったということが見逃せない要点である。馬に慣れた武士が見放した馬であるから、馬が助からない可能性はあったはずで、しからば男もこれを考慮に入れて交換に応じたは

ずなのである」（一四一・4）について、

〔1〕「引き取る時点では倒れていて、死にそうであった」ということが見逃せない」のはなぜか。〔4〕

〔2〕「これ」が指す内容を答えよ。

四 「言い換えれば、男は馬が死ぬかもしれないというリスクごと馬を買い取ったのだ。すなわちこれは成功するかしないかわからない、リスクの大きい事業に投資をしたことと同じである。リスクをとってなされた投資の成果を享受することと、労せず富を得ることには大きな差がある」（一四一・8）について、

〔1〕「リスク」の意味を調べよ。

〔2〕「これ」が指す内容を答えよ。

〔3〕「投資」の意味を調べよ。

〔4〕「リスクの大きい事業に投資をした」とは、この取引では具体的にどういうことか。

〔5〕「享受」の意味を調べよ。

五 「さて、ミカンと反物については、男は特段の工夫もなく右から左に取引してもうけたと見ることはできる。しかしこれも、何か特殊な出来事が起こったというわけではない。畑で採れた余ったミカンを街中までトラックで運び、道行く人に売ると本質的には同じことだ。ここでは、欲している人の元に物を動かすということは、それだけで立派な経済活動であるということが学ばれるべきなのである。つまり、運送業や小売業がなぜ我々の経済の中で大切な役割を占めているのかを説明する、格好の材料が提供されているのだ」（一四一・12）について、

(1) 「右から左」の意味を調べよ。

(2) 「これ」が指す内容を答えよ。

(3) 「特殊」の意味を調べよ。

(4) 「何か特殊な出来事が起こったというわけではない」とは、  
どういうことか。

(5) 「畑で採れた余ったミカンを街中までトラックで運び、道行く人に売ると」本質的には同じ」とあるが、どういう点で  
同じなのか。

(6) 「立派な経済活動」とあるが、同じ意味の表現をこの形式段  
落から抜き出せ。

六 「わらしべを持った男には、もちろん運もあった。しかしより大切なのは、男は他人を喜ばすという正当な経済活動を営んだからこそ、利益を積み上げて富貴を得ることができたということだ。ここが「わらしべ長者」にて味わうべき点なのである(一四二・4)について、

(1) 「富貴」の意味を調べよ。

(2) 『『わらしべ長者』にて味わうべき点』とあるが、「味わうべき点」は何か。

七 「思うに、「わらしべ長者」にある種の嫌悪感がともなう原因は、特定の個人に話の焦点が当たっているためではないか。つまり、そのほかの人たちが、男との取引の結果どれだけ豊かになったのかが書き込まれていないために、男だけ突出して幸運であり、何かあくどい事をしたかのように見えてしまうのだ」

(一四二・8)について、

(1) 「嫌悪」の意味を調べよ。

(2) 「ある種の嫌悪感」を具体的に説明せよ。

(3) 「焦点」の意味を調べよ。

(4) 「特定の個人に話の焦点が当たっている」とあるが、ここ  
は具体的にどういうことを指すか。

(5) 「あくどい」の意味を調べよ。

八 「たとえば、わらしべを受け取った子供が、少年時代に体験したアブのおもちゃ遊びのアイデアをヒントにして、大人になって玩具メーカーを立ち上げ、末は東証一部上場の大企業にまで成長するところまで話が続いていたら、わらしべ男の生き方を非難する人は少なからうと思う」(一四二・12)について、

(1) 「わらしべ男の生き方を非難する人は少なからうと思う」のはなぜか。

九 「実際、我々はだれしも毎日何らかの労力をさいては、自分  
が作り出したものではないものを手に入れて、少しずつ利益を  
積み重ねるといふ、わらしべ長者的な生活を営んでいるのであ  
る。差があるとすれば、それは一度の取引で得られるもうけの  
程度と質にある」(一四三・1)について、

(1) 「毎日何らかの労力をさいては、……利益を積み重ねるとい  
う、わらしべ長者的な生活」は、どの言葉と合致するか。一  
三八頁の本文中から十字程度後で抜き出して答えよ。

(2) 「わらしべ長者的」とは、どういうことか。

一〇 「この点についても、わらしべ男が長者になるためにわず  
か四回の取引しか要さなかったのは、昔話は簡潔明瞭でなけれ  
ばならないという制約の産物と見るべきであり、これをして彼  
が度を越した幸運の持ち主だとみなすべきではないと私は考え  
る。もっと細かな取引を繰り返して利益を積み重ね、そして結

果として一国一城の主になったとしたら、それはまさに地道な  
勤労の美徳の結果として、賞賛されるべきことではないだろう  
か「(一四三・五)について、

(1)「この点」とは、どのような点か。

〔

〕

(2)「四回の取引」について男は何を何と取引したか、順に答えよ。

〔

〕

(3)「これをして」とは、どういう意味か。「これ」の指示内容も示して答えよ。

〔

〕

(4)「一国一城の主」の意味を調べよ。

〔

〕

### ■第三段落(一四三・11～一四四・8)

一 「わらしべ長者」は日本独特の話ではない。世界各国にそれに似た昔話があり、そこに経済学的な考え方の普遍性を私は感じるのである。私の特に好きなのはヒマラヤの国ブータンで語られる話だ「(一四三・11)について、

(1)「普遍(性)」の意味を調べ、対義語をあげよ。

〔

意味

〔

〕

対義語

〔

〕

(2)「経済学的な考え方の普遍性」とは、どういうことか。

〔

〕

(3)「ブータンで語られる話」について男は何を何と取引したか、省略されている部分は(省略)として順に答えよ。

〔

〕

(4)「ブータンで語られる話」が日本の「わらしべ長者」の話と最も大きく異なる点は何か。

〔

〕

二 「経済学の理屈では、この男も利益を得たはずだし、実際そうだろう。こういう人物こそ、人生で本当に大きな利益を得られるものではないかと、私は思う」(一四四・7)について、

(1)「こういう人物」とは誰を指すか。二十字以内で答えよ。

〔

〕

# 「わらしべ長者」の経済学

授業プリント

学年	
組	
番号	
名前	

## ■第一段落（一三六・1～一四〇・11）

一 「昔、貧しい男がいた。男は観音さまに富を授かるよう祈願した。すると、最初に手につかんだものを大切にせよとお告げがあった。男が最初に手にしたのは何のとりえもないわらしべ（わらの屑）であったが、お告げを信じてこれを捨てずに持ち歩いた」（一三六・2）について、

(1) 「わらしべ」の「わら（藁）」の語を使った慣用句をあげよ。

〔「**わらにもすがる**」「**溺れる者はわらをもつかむ**」など。〕

(2) 「お告げを信じて」とあるが、誰のどういう言葉を信じたのか。

〔**観音の、最初に手につかんだものを大切にせよというお告げ。**〕

二 「飛び回るアブをそのわらしべでしばって持ち歩いたら、道行く子供がそれを欲しがったので、その母親が持っていたミカンとわらしべを交換した。すると、のどが渴いて水気のあるものを探していた商人と出会ったので、商人が持っていた半端の反物とミカンを交換した」（一三六・6）について、

(1) 「それ」とは何を指すか。

〔**飛び回るアブをわらしべでしばったもの。**〕

(2) 「半端」の意味を調べ、その語を使った四字熟語を書け。

意味 〔**①数がそろわないこと。足りないこと。②どちらともつかないこと。**〕

四字熟語 〔**中途半端**〕

三 「次には旅を急いでいるのに、馬が倒れてしまった武士と出会った。そこで、その反物と道に倒れた馬とを取り換えた。幸いにも、馬を介抱したら元気になった」（一八四・10）について、

(1) 「介抱」の意味を調べ、類義語をあげよ。

意味 〔**けが人や病人の世話をすること。看病。**〕

類義語 〔**看病・看護**〕

四 「「わらしべ長者」の物語では、特段の努力をせずにただ道を歩いていただけで、つまらないわらしべが最後には高価な屋敷に化けたという、男の驚くべき幸運に注目が集まるようだ。実際、「わらしべ長者」をキーワードにインターネット検索をしてみると、少ない元手で楽をして大もうけというたぐいの話が山ほど出てくる」（一三七・5）について、

(1) 「特段」の意味を調べよ。

〔**特別。格別。**〕

(2) 「努力をせずにただ道を歩いていた」の「努力」とはどのような努力か。

〔**金持ちになるための努力。**〕

(3) 「元手」の意味を調べよ。

〔**事業を始める際に、設備を整えたり、商品や資材を購入したりするのに必要となる金。資本。**〕

五 「話に面白みをつけるにはこれでもよいかもしれないが、この点に気を取られてしまうと、「わらしべ長者」は実直な勤労の美德と価値を否定する、子供には有害な話とみなされかねない。経済学者としては、「わらしべ長者」が労せず大もうけの意味に解釈されるのは大変残念なことだ」（一三七・10）について、

(1) 「この点」とは、どのような点か。

〔**少ない元手で楽をして大もうけする点。**〕

(2) 「実直」の意味を調べよ。

〔**正直で真面目なこと。**〕

(3) 「美德」の意味を調べよ。

〔**美しい徳。道徳にかなった行為。**〕

(4) 「労する」の意味を調べよ。

〔**苦勞する。**〕

六 「なぜなら、「わらしべ長者」は、経済学の視点で見ると非常に興味深く、有害どころか親子でじっくり味わうべき話だからだ。ここには、自発的な取引によって経済的な利益が生まれ、さらに取引に参加したすべての人たちは利益を受け取るこができる、すなわち交換による経済的価値の創造という、教科書の第一章に出てくる経済の基本原則が美しく表現されている」（一三七・14）について、

(1) 「有害どころか親子でじっくり味わうべき話」とあるが、なぜか。

〔**単なる大もうけの話ではなく、経済の基本原則が美しく表現されており、教育的に有益な点があるから。**〕

(2) 「自発」の意味を調べよ。

〔**物事を自分から進んですること。**〕

(3) 「創造」の意味を調べよ。

〔**新たに初めてつくり出すこと。**〕

(4) 「交換による経済的価値の創造」とはどういうことか。

〔**自発的な取引によって、物に交換物としての新たな価値が**

生じるということ。

七 「自発的交換による価値創造の原則は簡単明瞭である。自発的な双方の合意のうえで交換されるためには、交換に応じる双方にとって、交換前よりも交換後の状態の方が好ましいものでなければならず、その差がまさに交換によって得られた価値にほかならない」(二三八・七)について、

(1) 「明瞭」の意味を調べよ。

〔はっきりとしていること。明らかなこと。〕

(2) 「自発的な双方の合意」とあるが、その前提となるのはどのようなことか。

〔交換に応じる双方にとって、交換前よりも交換後の状態の方が好ましいものであるということ。〕

(3) 「その差」とは何と何の差か。

〔交換前と交換後の状態の差のこと。〕

八 「話に現れる取引を振り返ると、断ろうと思えば断れるものばかりだったから、話の中でももちろんこの原則は成り立つ。わらしべを家に変えた男が大いに利益を得たことは言うまでもないが、ほかの人たちも利を得ていることを忘れてはならない」(二三八・14)について、

(1) 「断ろうと思えば断れる」とは、どういうことか。

〔交換によって自分の目的にかなった利益を得られることが見込めなければ、交換に合意しなくてもかまわないということ。〕

(2) 「この原則」とは、どのような原則か。①

〔自発的交換による経済的価値創造の原則。〕

(3) 「ほかの人たちも利を得ている」について、それを具体的に説明した箇所を本文中から抜き出し、最初と最後の十字を答えよ。(句読点を含む。)

〔子供にとってはミカンのだったはずである。〕

九 「このような取引からの利益は、物々交換の世の中ゆえに起こることではなく、金銭を使う現代経済でも同じことであることにも注意しておきたい。たとえば、男は千円でわらしべを売り、その千円でミカンを買ったと話を書き換えればよい。つまり、特定の取引に貨幣が媒介するかどうかということ自体は問題ではないのだ」(二三九・10)について、

(1) 「媒介」の意味を調べよ。

〔仲立ちとなるもの。〕

(2) 「特定の取引に貨幣が媒介するかどうかということ自体は問題ではない」のはなぜか。②

〔物々交換であっても金銭が仲立ちする交換であっても(その交換が自発的で交換前よりも交換後の状態の方が好ましいものになるといふ)経済的な価値創造の原則に変わりはないから。〕

一〇 「より本質的なのは、専門用語で言う「市場の非完備性」ということである。つまり、登場する人々がそろって共通に取引できる場が備わっていないという点だ。仮に、物語に登場する人々が一堂に会して、さてお互いに物を売買しようという事になったら、わらしべを持った男が屋敷を手にする可能性はほとんどない」(二三九・15)について、

(1) 「完備」の意味を調べよ。

〔完全にそなわっていること。〕

(2) 「より本質的なのは、専門用語で言う『市場の非完備性』ということである」とは、どういうことか。次の空欄A・Bに適切な言葉を入れて答えよ。

わらしべ長者の取引において本質的な問題は (A) という点になく、(B) という点にある。

A 〔貨幣が媒介するかどうか〕

B 〔登場する人々がそろって共通に取引できる場が備わっていない〕

(3) 「一堂に会する」の意味を調べよ。

〔同じ場所に寄り集まること。〕

(4) 「わらしべを持った男が屋敷を手にする」には、どのような条件が必要か。

〔登場する人々が直接に取引できる場がなく、取引を媒介できる人物がわらしべを持った男だけという条件。〕

一一 「したがって、わらしべを持った男が大もうけできたのは、これらの人の間では直接に取引できる場が完備しておらず、また取引を媒介できる人物が彼しかなかったからである。言い換えれば、これらの人たちの間に眠る経済的価値を引き出すことができるのは、わらしべの男しかなかったからだ。そういう役割を担った結果、男はもうけるべくしてもうけたのである」(一四〇・7)について、

(1) 「これらの人」が指す内容を本文中から十字以内で抜き出せ。

〔物語に登場する人々(9字)〕

(2) 「これらの人たちの間に眠る経済的価値」とは、どのようなものか。③

〔その場では取引できない人たちであっても、機会があれば得ることができるような利益。〕

## ■第二段落（一四〇・12～一四三・10）

一 「それでは、男がそのような役回りを運だけで手に入れたのだろうか。私はそうは思わない。なぜなら、話の中で男は少なくとも二度にわたり、無視できない重要な経済活動をしているからだ」（一四〇・12）について、

(1) 「そのような役回り」とは、どのようなものか。

〔物語に登場する人々の間で取引を媒介できる唯一の人物として大もうけした役回り。〕

(2) 「無視できない重要な経済活動」とは何と何か。

〔人々を喜ばせる創造的なアイデアによって単なるわらしべに価値を生み出したことと、死にそうな馬を引き取るこ  
とによってリスクの大きい事業に投資したこと。〕

二 「第一に、わらしべにアブを結びつけたというところだ。確かにわらしべとアブはたまたまたダで手に入ったものかもしれないが、それらを結びつけたことで男はおもちゃを生産したのである。たとえ原価がゼロであっても、人を喜ばせる創造的なアイデアに対価が支払われることに何らの不都合はないはずである」（一四〇・15）について、

(1) 「わらしべにアブを結びつけた」のが経済活動と言えるのは、なぜか。

〔人を喜ばせる独創的なアイデアで、おもちゃを生産したことになるから。〕

(2) 「タダで手に入った」を言い換えた箇所を、本文中から五字で抜き出せ。

〔原価がゼロ〕

(3) 「原価」の意味を調べよ。

〔ある品物の完成までに必要とした費用を、品物一つあたりに計算した価。製品などの生産に必要なとした価。〕

(4) 「人を喜ばせる創造的なアイデア」とは、具体的にはどのようなことか。

〔わらしべにアブを結びつけて、おもちゃを作ったこと。〕

(5) 「対価」の意味を調べよ。

〔他人に労力や財産を提供した報酬として受け取る利益。〕

(6) 「対価」とは、この取引では具体的に何のことか。

〔ミカン〕

三 「第二に、馬を引き取ったところである。馬が息を吹き返したのは確かに幸運であったが、引き取る時点では倒れていて、死にそうであったということが見逃せない要点である。馬に慣れた武士が見放した馬であるから、馬が助からない可能性はあ

ったはずで、しからば男もこれを考慮に入れて交換に応じたはずなのである」（一四一・4）について、

(1) 「引き取る時点では倒れていて、死にそうであった」ということが見逃せない」のはなぜか。<sup>4</sup>

〔交換する馬が死にそうであるというリスクを含む取引は、将来の利益を見込んで行う「投資」という経済活動であると考えられるから。〕

(2) 「これ」が指す内容を答えよ。

〔馬が助からない可能性。〕

四 「言い換えれば、男は馬が死ぬかもしれないというリスクと馬を買い取ったのだ。すなわちこれは成功するかしないかわからない、リスクの大きい事業に投資をしたことと同じである。リスクをとってなされた投資の成果を享受することと、労せず富を得ることに大きな差がある」（一四一・8）について、

(1) 「リスク」の意味を調べよ。

〔危険・危険度。予想通りにはならない可能性。〕

(2) 「これ」が指す内容を答えよ。

〔死ぬかもしれないというリスクと馬を買い取ったこと。〕

(3) 「投資」の意味を調べよ。

〔利益を得るという目的のために、事業や不動産などに資金を投入すること。また、将来の価値を見通して金銭や労力をつぎ込むこと。〕

(4) 「リスクの大きい事業に投資をした」とは、この取引では具体的にどういうことか。

〔死ぬかもしれない馬と、自分が持っていた反物を取り換えたということ。〕

(5) 「享受」の意味を調べよ。

〔受け入れて楽しむこと。物質的、精神的な利益を受け、それを味わい楽しむこと。〕

五 「さて、ミカンと反物については、男は特段の工夫もなく右から左に取引してもうけたと見ることはできる。しかしこれも、何か特殊な出来事が起こったというわけではない。畑で採れた余ったミカンを街中までトラックで運び、道行く人に売ると本質的には同じことだ。ここでは、欲している人の元に物を動かすということは、それだけで立派な経済活動であるということが学ばれるべきなのである。つまり、運送業や小売業なぜ我々の経済の中で大切な役割を占めているのかを説明する、格好の材料が提供されているのだ」（一四一・12）につい



て、

(1) 「右から左」の意味を調べよ。

〔入ってきた金銭や品物などがすぐに出て行ってしまおうこと。〕

(2) 「これ」が指す内容を答えよ。

〔ミカンと反物を取引してもうけたこと。〕

(3) 「特殊」の意味を調べよ。

〔普通と異なること。特別であること。〕

(4) 「何か特殊な出来事が起こったというわけではない」とは、どういうことか。

〔一般的な経済活動の原則を逸脱した出来事ではないということ。〕

(5) 「畑で採れた余ったミカンを街中までトラックで運び、道行く人に売ると」本質的には同じ」とあるが、どういう点で同じなのか。

〔欲している人の元に物を動かすことが、相互に利益をもたらす経済活動であるという点。〕

(6) 「立派な経済活動」とあるが、同じ意味の表現をこの形式段落から抜き出せ。

〔経済の中で大切な役割を占めている〕

六 「わらしべを持った男には、もちろん運もあった。しかしより大切なのは、男は他人を喜ばすという正当な経済活動を営んだからこそ、利益を積み上げて富貴を得ることができたということだ。ここが「わらしべ長者」にて味わうべき点なのである(一四二・4)について、

(1) 「富貴」の意味を調べよ。

〔金銭的な豊かさに恵まれ、地位や身分などが高いこと。〕

(2) 『わらしべ長者』にて味わうべき点」とあるが、「味わうべき点」は何か。

〔他人を喜ばすという正当な経済活動を営み、利益を積み上げて富貴を得ることができた点。〕

七 「思うに、「わらしべ長者」にある種の嫌悪感がともなう原因は、特定の個人に話の焦点が当たっているためではないか。つまり、そのほかの人たちが、男との取引の結果どれだけ豊かになったのが書き込まれていないために、男だけ突出して幸運であり、何かあくどい事をしたかのように見えてしまうのだ」

(一四二・8) について、

(1) 「嫌悪」の意味を調べよ。

〔憎み嫌うこと。〕

(2) 「ある種の嫌悪感」を具体的に説明せよ。

〔男だけが突出して幸運なのは、何かあくどい事をしたためではないかと否定的にとらえる感情。〕

(3) 「焦点」の意味を調べよ。

〔人々の関心・注意が集まる点。また、問題の中心点。〕

(4) 「特定の個人に話の焦点が当たっている」とあるが、ここでは具体的にどういうことを指すか。

〔わらしべを持った男の幸運だけが語られ、ほかの人物の取引の結果については詳しく描かれていないということ。〕

(5) 「あくどい」の意味を調べよ。

〔方法や程度が普通を越えていて、たちが悪い。〕

八 「たとえば、わらしべを受け取った子供が、少年時代に体験したアブのおもちゃ遊びのアイデアをヒントにして、大人になって玩具メーカーを立ち上げ、末は東証一部上場の大企業にまで成長するところまで話が続いていたら、わらしべ男の生き方を非難する人は少なからうと思う」(一四二・12)について、

(1) 「わらしべ男の生き方を非難する人は少なからうと思う」のはなぜか。

〔わらしべ男以外の人も豊かになった話が加わると、男だけが突出して幸運になった印象が消え、わらしべ男が何かあくどい事をしたと推測されなくなるから。〕

九 「実際、我々はだれしも毎日何らかの労力をさいては、自分が作り出したものではないものを手に入れて、少しずつ利益を積み重ねるといふ、わらしべ長者的な生活を営んでいるのである。差があるとすれば、それは一度の取引で得られるもうけの程度と質にある」(一四三・1)について、

(1) 「毎日何らかの労力をさいては、……利益を積み重ねるといふ、わらしべ長者的な生活」は、どの言葉と合致するか。一三八頁の本文中から十字程度後で抜き出して答えよ。

〔自発的交換による価値創造(12字)〕

(2) 「わらしべ長者的」とは、どういうことか。

〔何らかの労力をさいて、自分が作り出したものではないものを手に入れて、少しずつ利益を積み重ねること。〕

一〇 「この点についても、わらしべ男が長者になるためにわずか四回の取引しか要さなかったのは、昔話は簡潔明瞭でなければならぬという制約の産物と見るべきであり、これをして彼が度を越した幸運の持ち主だとみなすべきではないと私は考える。もっと細かな取引を繰り返して利益を積み重ね、そして結

果として一国一城の主になったとしたら、それはまさに地道な勤労の美徳の結果として、賞賛されるべきことではないだろうか〔一四三・五〕について、

(1)「この点」とは、どのような点か。

〔人によって一度の取引で得られるもうけの程度と質に差がある点。〕

(2)「四回の取引」について男は何を何と取引したか、順に答えよ。

〔一回目…わらしべをミカンと。二回目…ミカンを反物と。

三回目…反物を馬と。四回目…馬を屋敷と。〕

(3)「これをして」とは、どういう意味か。「これ」の指示内容も示して答えよ。

〔「わらしべ男が長者になるためにわずか四回の取引しか要さなかった」ことを理由にして。〕

(4)「一国一城の主」の意味を調べよ。

〔「一つの国または一つの城の主人ということから、他からの助けや関与を受けずに、独立している者。〕

### ■第三段落（一四三・11～一四四・8）

一 「わらしべ長者」は日本独特の話ではない。世界各国にそれに似た昔話があり、そこに経済学的な考え方の普遍性を私は感じるのである。私の特に好きなのはヒマラヤの国ブータンで語られる話だ〔一四三・11〕について、

(1)「普遍（性）」の意味を調べ、対義語をあげよ。

意味 〔すべてのものに例外なくあてはまること。「普遍

性」は、すべてのものに通じる性質。〕

対義語 〔特殊（性）〕

(2)「経済学的な考え方の普遍性」とは、どういうことか。

〔5〕〔自発的な交換によって得られる価値の創造といった考え方が、時代や場所に左右されず存在すること。〕

(3)「ブータンで語られる話」について男は何を何と取引したか、省略されている部分は（省略）として順に答えよ。

〔宝石を馬と。馬を牛と。牛を羊と。（省略）。鳥を歌と。〕

(4)「ブータンで語られる話」が日本の「わらしべ長者」の話と最も大きく異なる点は何か。

〔「わらしべ長者」の話が順に市場価値の高い物と取引しているのに対して、ブータンの話は順に市場価値の低い物と取引していく点。〕

二 「経済学の理屈では、この男も利益を得たはずだし、実際そうだろう。こういう人物こそ、人生で本当に大きな利益を得られるものではないかと、私は思う」〔一四四・7〕について、

(1)「こういう人物」とは誰を指すか。二十字以内で答えよ。

〔ブータンで語られる話に登場する人物。（18字）〕